

2年 生活科学習指導案

授業者 住田 亮

1. 単元名 「モルモットとすごそう」(動植物の飼育・栽培)

2. 単元の目標

- モルモットの飼育方法を調べ、毎日世話を積み重ねることを通して、生き物の飼育にはその生き物に応じた環境を整えることや世話をするのが大切であることに気付く。 [知識及び技能の基礎]
- 調べたモルモットの飼育方法や飼育環境を基に世話をする活動を通して、モルモットの性格や特徴を捉え、それに合った方法や環境を考え働きかける。 [思考力、判断力、表現力などの基礎]
- モルモットの飼育を振り返る活動を通して、自分の頑張りと成長、変化に気付いたり、生命を大切にしようとしたりする。 [学びに向かう力、人間性等]

3. 子どもと教材

(1)子どもについて

本学級の子どもは生き物に高い関心をもっている。休み時間には、バッタやチョウ、ダンゴムシ、アリ、エビなどを捕まえたり、触ったり、触れなくても近くで観察したりしている。誰かがこのような行動をしていると周りの子は一緒になって虫取りや観察をしている。生き物を手に載せて観察しているときにその生き物に話しかけることや、広いところで離して遊ばせることもある。子どもたちは自分なりの方法で生き物に関わっているのだろう。「先生！教室で飼ってもいい？」と飼育することに関心を持ち、虫かごや餌を用意する子もいる。そんな生き物に関心をもっている子どもたちであるが、飼育の様子を見てみると、バッタを虫かごの中に運動場の砂を入れて飼ったり、ダンゴムシに餌として草を与えたりするなど、生き物に応じた環境を整えることや世話をすることができていないところがいくつかあった。おそらく、飼育するために必要な知識や命を扱っているという意識が足りていないからだろう。その背景として、社会や環境の変化によって子どもの「自然と関わる機会」が減少したことや子どもが生活の中で関わる虫などの生き物は、身の周りに数多く生息しているため一つひとつの命の大切さを感じにくいことが普段の子どもの様子から考えられる。子どもに放課後の過ごし方を聞くと、家の中で過ごす子や習い事にいく子が多く、外で遊ぶ子は少ないことがわかった。また、飼育していた生き物が死んでしまった次の日に、新たに捕まえて飼育するということもある。

本単元では、モルモットを飼育する活動を通して、生き物の世話をする楽しさや飼育することの難しさを子どもに感じてほしい。また、それらを感じる中で、生き物を飼育するとはどういうことなのかを考え、命の大切さに気付いてほしい。そしてこれまで出会ってきた命も同じように大切であることに気付く機会になることを願っている。

(2)教材について

本単元ではモルモットと出会い、飼育をする。モルモットは平均体長 20～40 cm のサイズであり両手に載せて触れ合うことができる。実際に触れることでモルモットの体温や毛並みを感じることができる。警戒心が強いところがあるが、噛んだり引っかかりたりすることは少なく、小学生でも安全に飼育することができる。餌を与える人を覚えたり、何度も触れ合う中で慣れたりすることで自分からスキンシップを求めるところもある。また、モルモットは子どもの生活の中で偶発的に出会うことのない生き物である。そのため子どもにとって珍しい生き物であると言えるだろう。モルモットに出会った子どもは見たたり触れたりして飼育することの関心を高めていくだろう。

モルモットを迎えるにあたって、子どもは調べたことや考えたことを基に飼育環境や世話の仕方をを行う。飼育していく中で「僕が手を伸ばすとよく寄ってくる。餌がもらえると思っているのかな」「私の手に体を擦ってきた。触ってほしいのかな」とモルモットが自分のことを覚えてくれたことや慣れてくれたことを感じて愛着をもったり、飼育方法の手ごたえを感じたりして、「どうしてほしいのか

な」とモルモットに寄り添っていくだろう。このようなモルモットに対する愛着や飼育方法の手ごたえから、子ども一人ひとりが「モルモットが～だから〇〇したい」と自分のやりたい飼育方法の考えをもっていく。子どもが班で飼育方法を説明し合う中で「餌をたくさん食べたいかもしれないけど太りすぎて良くないよ」「触りすぎるのってストレスなんじゃないかな。あんまり触らないようにしてあげない？」など、それぞれのやりたい飼育方法からモルモットが気持ちよくすごすための飼育方法を試していく。また、試していく中で得た気付きからさらに飼育方法を試行錯誤していくだろう。

子どもは「温もりがある」「安全に飼育できる」「飼育の手ごたえを感じられる」「珍しい」モルモットと出会い、飼育していくことを通して、命の大切さを感じる経験に出合うと考える。子ども一人ひとりが命の大切さを感じ、生き物を飼育することとはどういうことなのかを考えることを願っている。

4. 本単元における『その子らしく学ぶ』

モルモットと出会った子どもはまず、モルモットを観察したり触ったりして関心を高めていくだろう。飼育方法を調べ、飼育に必要な物を準備してモルモットを迎え、飼育していく。モルモットと関わっていく中でモルモットの様子から「もっとたくさん食べさせたい」「もっとたくさん触りたい」「もっと遊ばせたい」などのやりたいことが生まれるだろう。そうしたやりたい飼育方法を行う中で、モルモットの様子から「たくさん触られるのは嫌なのかな」「太りすぎてないかな」「ケージがきたなくてかわいそう」など気付きを得ていく。その気付きを基に子どもは「モルモットが～だから〇〇したい」という飼育への思いをもつはずだ。

第①時では、モルモットと出会う。ゲージの中にいる様子を見たり、手に載せたりすることで「かわいい」「触ると気持ちいい」など関心をもつだろう。飼い主からの「大切に預かってほしい」という手紙から、「飼ってもいいの」「うまく飼えるかな」「どうやって世話をするのだろう」とモルモットを飼育することのイメージを膨らめていくはずだ。

第②時では、モルモットを飼育するために、モルモットに関する本やインターネットの記事から飼育方法や飼育環境を調べる。グループごとモルモットを迎える準備をしていく中で、「餌は何をたべるのかな」「一日に何回たべるんだろう」「ケージの中には何を入れればいいのか」「名前を決めようよ」と飼育することへの楽しみを増やしていくだろう。

第③時では、モルモットを迎え、飼育をスタートしていく。これまで調べ準備してきた飼育方法や環境でモルモットの世話をしていく。授業の時間だけでなく毎日世話をしていくことで触れ合うことを楽しんだり、懐いてくれたりすることを感じて愛着が芽生えていく。

第④⑤時では、これまでの飼育方法や環境を振り返り、これからの世話の仕方を考える。これまでにモルモットと関わる中で得た気付きから、子どもがそれぞれ飼育方法の考えをもってグループで話し合う。子どもが得る気付きは一人ひとり違い、やりたい飼育方法も違ってくるだろう。そのため、子どもは共通して「モルモットが気持ちよくすごすための飼育」を目指す、それを実現するための考えは一人ひとり違い、そこに『その子らしさ』が表出されるだろう。

第⑥時では、これまでにモルモットの世話から学んだことをどうしたいかを考える。「飼い主さんにモルモットを大切に世話をしていることを伝えたい」「家の人や学校みんなにモルモットに触れ合ってほしい」「モルモットの世話を頑張ったことを発表したい」などの意見が出るだろう。これまでにモルモットと真剣に関わってきたからこそ、それを外に発信したいという思いが強くなるはずだ。

第⑦⑧時では、発表のための準備を行う。モルモットの世話の仕方や触れ合い方を基本にグループごと発表の内容を考えていく。グループごとこれまでに得た気付きが違うことから発表内容もそれぞれ異なったものになるはずだが、どのグループもモルモットのことを考えて世話をしてきたことから「モルモットのために毎日掃除しました」「触りすぎるとストレスだから回数を決めました」「落とさないように気を付けて抱っこしてね」などモルモットに寄り添った内容になるだろう。

第⑨時では、これまでのモルモットの世話で学んだことを発表する。発表を聞いた人から感想をもらったり、モルモットと触れ合ってもらったりすることで、これまで世話をしてきたことをよかった

と感じ、満足感を得るだろう。

このようなモルモットを飼育する活動が、子どもにとって命の大切さ感じる機会となり、これからの生活でも身近にある命を大事にしていくことに繋がることを願いたい。

5. 単元構想（全9時間扱い/本時は第⑤時）

＜教師の投げかけ＞

子どもの表れ

最終時における子どもの表れ

○教師の働きかけ

① ＜モルモットとふれ合ってみよう＞

- ・かわいい
- ・触ってみてもいい
- ・噛まないかな
- ・触ろうとすると逃げるよ
- ・毛がふさふさしてる
- ・だっこしてみたい
- ・やさしくだっこしないとだめだよ

＜モルモットをかってみる？＞

- ・うまく飼えるかな
- ・預かるんだから大切に飼わなきゃだね
- ・何を食べるんだろう
- ・モルモットを入れるケージがいるよ
- ・モルモットの飼い方を調べようよ
- ・モルモットのことが書いてある本を見てみようよ

○子どもが関心をもつように飼い主から小学生に触れ合ってほしいという手紙が届いたことを伝える。

○子どもがモルモットと安全に触れ合えるように、触る際の注意点を説明する。

○モルモットの命に対して責任をもてように、モルモットの飼い主からのメッセージを伝える。

② ＜モルモットはどうやってかえばいいのかな＞

【環境】

- ・入れるケージが必要だよ
- ・下に新聞紙を敷くんだね
- ・牧草も食べるみたい。新聞紙の上に敷いてあげよう
- ・寝るところが必要だよ。巣箱を置いてあげよう
- ・水を飲む場所も作ろう

【世話】

- ・餌は何を食べるのかな
- ・モルモットフード以外に牧草や野菜も食べるんだって
- ・ケージの中をきれいにしないとイケないんだって。
- ・餌をあげるのと掃除をみんなで行おうね

○子どもが飼育準備の見通しがもてるように、モルモットをいつ迎えるのか伝える。

○自分たちで飼育するための方法を調べられるように、モルモットに関する本やインターネットの記事を用意する。

○子どもが具体的に何が必要かを考えられるように、飼い主から預かっている飼育道具を伝える。

③ ＜モルモットをむかえよう＞

- ・用意したケージを気に入ってくれるかな
- ・巣箱に入ってくれるかな
- ・みんなでだっこして歓迎しよう
- ・あんまり動かないね
- ・優しくもってあげよう
- ・ぶるぶるふるえているよ
- ・なんだか怖がっているみたい
- ・来たばかりだからまだ慣れないのかな
- ・そっとしておいてあげようよ
- ・今日からお世話をがんばるぞ
- ・モルちゃん、今日からよろしくね

○今後も子どもが飼育方法や飼育環境を気にしていくように触れ合ったときやケージの中にいるときのモルモットの様子を確認するように声をかける。

○子どもが自分たちの飼育方法を振り返りやすくするため、モルモット日記を用意し、モルモットの様子や自分たちの世話を記録するように働きかける。

④ ＜モルモットは気持ちよくすごせているかな＞

【環境】

- ・牧草を入れて良かったね。よく食べているよ
- ・巣箱の中でよく寝てくれてるよ。気持ちよさそうでうれしいな
- ・最近ケージの中が汚れているよね。このままだとかわいそうだよ
- ・遊ぶ物があつた方が楽しいと思う。入れてあげようよ

【世話】

- ・みんなで優しく触ってあげられてるよ
- ・触ろうとすると逃げちゃう。慣れてくれてないみたいだ
- ・餌を食べてくれてるよ。もっと食べたそうだから増やしてみる？
- ・毎朝、学校に来たら餌をあげたり、水を交換したりできてるよね

○モルモットが気持ちよくすごすための飼育に子どもが向かっていけるように、モルモット日記を見返して、モルモットの様子から自分たちの飼育方法を振り返るように働きかける。

○全員が自分のやりたい飼育方法の考えをもって班での話し合いに参加できるように、自分の考えをまとめる時間を設ける。また、班での話し合いで、全員が自分の考えを言えるように、1人ずつ順番に話すように声をかける。

⑤ (本時) <モルモットは気持ちよくすごせているかな>

【環境】

- ・濡れた牧草は食べないから好きじゃないだね。牧草ちゃんと交換してあげよう
- ・寝ていることが多いから静かなところに置いてあげたいな
- ・きれいなケージで気持ちよさそう。
- ・おもちゃであんまり遊ばないね。嬉しくないのかな。入れるのをやめてみようかな

【世話】

- ・本によると触られすぎるとストレスみたいだよ。触る回数を決めようよ
- ・手に寄ってくるときがある。ぼくのこと憶えてくれたかも
- ・太ってきた気がする。餌や野菜をあげすぎてるかも
- ・帰った後はどうしてるんだろ。帰る前に餌と水をあげた方がいいんじゃないかな

⑥ <モルモットのことでわかったことがたくさんあるね。>

みんなはどうしたい>

- ・飼い主さんにどういう風にお世話をしているかを伝えたい
- ・5年生のペアや家の人にもモルモットと触れ合ってほしいな
- ・モルモットのことを最初に紹介して、その後に触ってもらおうのをしようよ
- ・モルモットの性格、この子の特徴、食べ物やケージのこと、だっこの仕方、紹介したいことがたくさんあるね
- ・グループの中で役割を決めようよ

⑦⑧ <発表の準備をしよう>

- ・紹介するのはモルモットの性格、この子の特徴、食べ物やケージのこと、だっこの仕方でいいよね
- ・画用紙に字とか絵を描いて見てもらえばわかりやすくなるよね
- ・この子の可愛いところを知ってほしいな
- ・餌がほしい時とか触ってほしい時に手に寄ってくることを紹介しよう。かわいいところを知ってもらおうよ
- ・餌やりとか掃除を当番でやったことも紹介しよう。大変だったけどみんながんばったよね
- ・だっこの仕方もちちゃんと説明しよう。間違っって落としたりしたらこの子がかわいそうだよ

⑨ <モルモットのことを発表しよう>

- ・モルモットの性格は怖がりです。でも慣れると餌が欲しい時に鳴いたり手に寄ってきます
- ・餌やりや掃除を当番を決めてやりました。毎日やるのは大変だったけどみんながんばったからこの子は今日まで元気に過ごしています
- ・片方の手に載せて、もう片方の手で尻を押さえてください。持ち上げる時と下すときも優しくやってください。高いところから落ちると死んじゃうので気を付けてだっこしてください
- ・かわいいでしょ。なつくともっとかわいいんだよ
- ・発表を聞いてくれてありがとうございます。モルモットのこと好きになりましたか

<モルモットをかってみてどうだったかな>

- ・最初は上手く飼えるか不安だったけどモルモットがなついてくれて仲良くなったよ
- ・毎日世話をすることは大変だったけどモルモットを飼うために大切だとわかったよ
- ・モルモットのことを考えてお世話すると、モルモットが喜んでくれている気がしてうれしかった

- やりたい飼育方法を考えられずに困っている子どもが考えをもてるように、席を移動して他の子と交流できる機会を設ける。
- 子どもが様々な考え方に触れられるようにグループと全体のそれぞれの振り返りの機会を設ける。
- これまでの飼育に手応えを感じられていない子どもが自信をもてるように、モルモットのことを考えて飼育してきたことを価値づける。
- これまでの飼育で分かったことをだれに伝えたいのかを考える。
- 伝えたいことが相手に伝わるように発表の目的を全体で確認する。
- 子どもが何を伝えたいのかを整理できるように、これまでの飼育で分かったことを全体で振り返り、その後グループで考える機会を設ける。

- 発表がより伝わりやすいものになるように、発表の目的を再度全体で確認してからグループごと発表準備をするようにする。
- 発表の仕方を工夫し、より伝わりやすいものになるように、画用紙、写真、動画などを使うことを保証する。
- 発表練習ができるようにグループで順番に発表側とお客さん側になるように働きかける。

- それぞれのグループの発表と触れ合いの時間を確保するため、発表時間を守るように促す。
- お客さんがうまくモルモットと触れ合えるように、実際にお客さんに触れ合う際に子どもが隣でアドバイスするように働きかける。
- 子どもが発表の成果を感じられるように、発表を聞いたり触れ合ったりした人に感想を聞く機会を設ける。

- 子どもがモルモットのことを考えて世話をしたことでの自分自身の成長や変化、成果などを感じられるように、今までの飼育方法や飼育環境、またそれらによるモルモットの様子を振り返る。